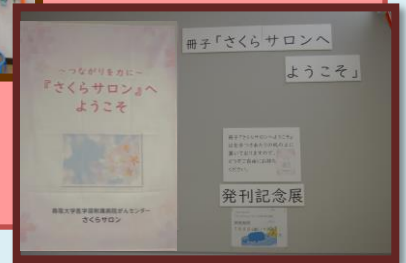
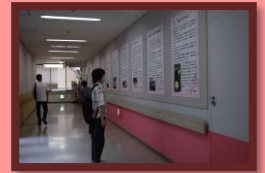


さくらだより

鳥取大学医学部附属病院 がんセンター
がん相談支援室/さくらサロン

6月14日～7月8日「さくらサロンへようこそ」 発刊記念展 @一階ギャラリー

この春発刊したさくらサロンの体験記をより多くの方に見ていただき、さくらサロンを知っていただきたい。そんな思いで開催した記念展は多くの方がご観覧下さいました。中には「家族が闘病中だった時にこのような場があれば」などのご感想もあり、用意していた冊子は多くの方が手にとってくださいました。コラボ企画の七夕短冊にもたくさんの願いが・・・ここからまたつながりが広がっていくことを願っております。



オンラインさくらサロンの 開催予定(要申込み)

8月9日(火) 9月13日(火) 10月11日(火)
13:00～15:00

6月・7月のオンラインさくらサロン
6月の参加者は8人、7月の参観者は9人。
がん相談支援室スタッフとしてがん看護
専門看護師も加わりました。

7月25日 がん患者さんご家族の体験交流会 ～抗がん剤の治療と食事～ 開催しました



「抗がん剤治療中の食事については、インターネットや書籍で色々で紹介されているけれど、食指が向かないものもある。それに食指が向かない自分はおかしいのかな?」「どれくらいの割合の人がどんなものを食べられたり、逆に食べられなかったりするのかな?」「この病院に通院している人の体験が知りたいなあ...」そんな患者さんからの声で企画されたミニレクチャー付体験交流会「抗がん剤治療中の食事のこと」を7月25日(月)に開催致しました。

看護師からのミニレクチャーではがん患者さんにとって、生命力の源となる「食」はがんを患っていない人以上に大切なことですが、「がんばって」食べる必要はない(食べるのが辛くなってしまわないように)。味覚変化(味覚障害)は化学療法を受けられる方の3～7割の方におこるため食べるための工夫が必要になってくることを伺いました。その後参加者同士では治療に伴って生じた味覚の変化の辛さ、工夫を語り合いました。「抗がん剤の副作用として食べられなくなる、というのは知っていたけれど味覚の障害が出るとは...」「白米は食べられない...」「朝、水を飲んだら金物の味がして衝撃でした...」「コロナ禍でもあり外出もままならない今、食べることにぐらいが楽しみなのに」「食べたいものが食べれないというのはとてもショックだった」また食事を作る上でも「自分が美味しいと思わない味が家族には美味しくて反対に家族が美味しくないというような味が自分は美味しいと感じて...」「食べれるものを食べれるだけでいいと言われてもやっぱり栄養のバランスも気になる...」そのようなご意見をうけ、栄養士の先生からは、白米の代わりにするものとしては小麦粉を使ったものだけでなく、芋・栗・かぼちゃ・れんこん・里芋・山芋・とうもろこしもあり、食事として食べられなかった時は間食としても取り入れやすい食材であること、タンパク質がとれなかった時には間食に「プリン」なども。口の中が荒れて痛い時は生クリームを足すとカロリーもアップし、油分でなめらかなるので食べやすい、など具体的なアドバイスをいただきました。

副作用の一つとして味覚に障害がでることを予め知っていると思えるし、食事のことで同じように悩んでおられる方が気軽に相談できたり他の人の工夫を知る機会がまたあったら...と参加者の方々からご意見をいただき無事に終了しました。

さくらサロン 文庫

「がん患者さんのための国がん東病院レシピ」「がん患者さんのための国がん東病院レシピ2」

著者 大江裕一郎・落合由美・松丸礼

国立がんセンター東病院では、がん治療に伴う症状で悩まれる患者さんやご家族の方を対象とした「柏の葉料理教室」を開催しています。これまでの料理教室にて好評だったレシピが食欲不振、味覚障害等と言った症状別に一食分の献立として掲載されており、また治療中によく見られる副作用についても解説されています。(T.Nさんより)

オンラインさくらサロンへのご参加を希望の方はがん相談支援室までお気軽にどうぞ。
また、引き続きメッセージや本のご紹介も募集しております。

がん相談支援室/さくらサロン
電話:0859-38-6294 吉岡・成相・奥野/中條E-mail: gan-center@med.tottori-u.ac.jp